

紙芝居・書籍一覧

★人権推進多文化共生課 （電話 740-1150 内線 2411）
■利用期間は、原則として2週間を限度とします。
■初めて借りられる方は、本人確認書類（運転免許証、マイナンバーカードなど）の提示をお願いいたします。

No	タイトル	内容	制作年	ジャンル	言語	ページ数	形態	発行
紙芝居①	まもる君10歳の戦争・吹田	原作:坂本衛「戦争体験10歳の記憶」 脚本:吹田の空襲を語り継ぐ会・川畑清美 画:臼井克枝 発行責任者:吹田の空襲を語り継ぐ会 まもるくん(坂本衛さん)は終戦時10歳でした。吹田駅近くにご両親と暮らしていました。 昭和20年には吹田にも空襲があり吹田駅前に爆弾が投下されました。 令和7(2025)年は戦後80年。まもるくんも90歳になりました。その体験の紙芝居になります。	2025/1	平和	日本語	14場面	紙芝居 (27×38cm)	吹田の空襲を語り継ぐ会
絵本1-1	サニーのおねがい 地雷ではなく花をください	世界では64カ国に計1億1千万個以上の地雷が埋設されているといわれています。その大部分が対人地雷です。対人地雷は兵士と一般人(子ども・女性・老人等)の見境なく、戦争が終わって平和な世界になっても、半永久的に被害をもたらす非人道的な武器です。取り除くのにもたくさんの時間と努力と費用がかかります。平和な世界をみんなでめざそうと、うさぎのサニーちゃんが、「地雷」について教えてくれます。この絵本1冊で、10平方メートルの地雷原がクリアな土地になります。 全・英訳付。 絵・廣祥明 文・柳瀬房子 英訳・祖馬雪香 報告・黒柳徹子 解説・吹浦忠正	1996/9	平和	日本語	48	ハードカバー 大型本 30×21cm	自由国民社
絵本1-2	サニーのおねがい 地雷ではなく花をください	世界では64カ国に計1億1千万個以上の地雷が埋設されているといわれています。その大部分が対人地雷です。対人地雷は兵士と一般人(子ども・女性・老人等)の見境なく、戦争が終わって平和な世界になっても、半永久的に被害をもたらす非人道的な武器です。取り除くのにもたくさんの時間と努力と費用がかかります。平和な世界をみんなでめざそうと、うさぎのサニーちゃんが、「地雷」について教えてくれます。この絵本1冊で、10平方メートルの地雷原がクリアな土地になります。 全・英訳付。 絵・廣祥明 文・柳瀬房子 英訳・祖馬雪香 報告・黒柳徹子 解説・吹浦忠正	1996/9	平和	日本語	48	ハードカバー 大型本 30×21cm	自由国民社
絵本1-3	サニーのおねがい 地雷ではなく花をください	世界では64カ国に計1億1千万個以上の地雷が埋設されているといわれています。その大部分が対人地雷です。対人地雷は兵士と一般人(子ども・女性・老人等)の見境なく、戦争が終わって平和な世界になっても、半永久的に被害をもたらす非人道的な武器です。取り除くのにもたくさんの時間と努力と費用がかかります。平和な世界をみんなでめざそうと、うさぎのサニーちゃんが、「地雷」について教えてくれます。この絵本1冊で、10平方メートルの地雷原がクリアな土地になります。 全・英訳付。 絵・廣祥明 文・柳瀬房子 英訳・祖馬雪香 報告・黒柳徹子 解説・吹浦忠正	1996/9	平和	日本語	48	ハードカバー 大型本 30×21cm	自由国民社
絵本2-1	続・地雷ではなく花をください ーサニー カンボジアへ	「地雷ではなく花をください」の続編。もっともっと地雷について知りたくなったサニーちゃんが、読者の方々の質問に答えるためにカンボジアに向かいます。カンボジアでは、戦争中に埋められた地雷がまだ、たくさん残っています。サニーちゃんはその地雷を取り除く作業を報告したり、怪我をして病院にいるお友達をお見舞いしたり、「一つでも地雷を取り除いて、お花を植えよう」とみんなに希望をもたせてくれます。 全・英訳付。 絵・廣祥明 文・柳瀬房子 英訳・祖馬雪香 寄稿・ジョディ ウィリアムズ 監修・吹浦忠正	1997/7	平和	日本語	48	ハードカバー 大型本 30×21cm	自由国民社
絵本2-2	続・地雷ではなく花をください ーサニー カンボジアへ	「地雷ではなく花をください」の続編。もっともっと地雷について知りたくなったサニーちゃんが、読者の方々の質問に答えるためにカンボジアに向かいます。カンボジアでは、戦争中に埋められた地雷がまだ、たくさん残っています。サニーちゃんはその地雷を取り除く作業を報告したり、怪我をして病院にいるお友達をお見舞いしたり、「一つでも地雷を取り除いて、お花を植えよう」とみんなに希望をもたせてくれます。 全・英訳付。 絵・廣祥明 文・柳瀬房子 英訳・祖馬雪香 寄稿・ジョディ ウィリアムズ 監修・吹浦忠正	1997/7	平和	日本語	48	ハードカバー 大型本 30×21cm	自由国民社
絵本2-3	続・地雷ではなく花をください ーサニー カンボジアへ	「地雷ではなく花をください」の続編。もっともっと地雷について知りたくなったサニーちゃんが、読者の方々の質問に答えるためにカンボジアに向かいます。カンボジアでは、戦争中に埋められた地雷がまだ、たくさん残っています。サニーちゃんはその地雷を取り除く作業を報告したり、怪我をして病院にいるお友達をお見舞いしたり、「一つでも地雷を取り除いて、お花を植えよう」とみんなに希望をもたせてくれます。 全・英訳付。 絵・廣祥明 文・柳瀬房子 英訳・祖馬雪香 寄稿・ジョディ ウィリアムズ 監修・吹浦忠正	1997/7	平和	日本語	48	ハードカバー 大型本 30×21cm	自由国民社

絵本3-1	続々・地雷ではなく花をください ―サニー ボスニア・ヘルツェゴビナへ	世界では64カ国に計1億1千万個以上の地雷が埋設されているといわれています。 その大部分が対人地雷です。 対人地雷は兵士と一般人(子ども・女性・老人等)の境なく、戦争が終わって平和な世界になっても、半永久的に被害をもたらす非人道的な武器です。取り除くのにたくさん の時間と努力と費用がかかります。 平和な世界をみんなでめざそうと、うさぎのサニーちゃんが、「地雷」について教えてください。 この絵本1冊で、10平方メートルの地雷原がクリアな土地になります。 全・英訳付。 絵・葉祥明 文・柳瀬房子 英訳・相馬雪香 寄稿・明石 康 監修・吹浦忠正	1998/9	平和	日本語	48	ハードカバー 大型本 30×21cm	自由国民社
絵本3-2	続々・地雷ではなく花をください ―サニー ボスニア・ヘルツェゴビナへ	世界では64カ国に計1億1千万個以上の地雷が埋設されているといわれています。 その大部分が対人地雷です。 対人地雷は兵士と一般人(子ども・女性・老人等)の境なく、戦争が終わって平和な世界になっても、半永久的に被害をもたらす非人道的な武器です。取り除くのにたくさん の時間と努力と費用がかかります。 平和な世界をみんなでめざそうと、うさぎのサニーちゃんが、「地雷」について教えてください。 この絵本1冊で、10平方メートルの地雷原がクリアな土地になります。 全・英訳付。 絵・葉祥明 文・柳瀬房子 英訳・相馬雪香 寄稿・明石 康 監修・吹浦忠正	1998/9	平和	日本語	48	ハードカバー 大型本 30×21cm	自由国民社
絵本3-3	続々・地雷ではなく花をください ―サニー ボスニア・ヘルツェゴビナへ	世界では64カ国に計1億1千万個以上の地雷が埋設されているといわれています。 その大部分が対人地雷です。 対人地雷は兵士と一般人(子ども・女性・老人等)の境なく、戦争が終わって平和な世界になっても、半永久的に被害をもたらす非人道的な武器です。取り除くのにたくさん の時間と努力と費用がかかります。 平和な世界をみんなでめざそうと、うさぎのサニーちゃんが、「地雷」について教えてください。 この絵本1冊で、10平方メートルの地雷原がクリアな土地になります。 全・英訳付。 絵・葉祥明 文・柳瀬房子 英訳・相馬雪香 寄稿・明石 康 監修・吹浦忠正	1998/9	平和	日本語	48	ハードカバー 大型本 30×21cm	自由国民社
絵本4-1	サニーのゆめ ありがとう地雷ではなく花をください	「地雷ではなく花をください」第4弾の完結編。 アフリカのアンゴラに行ったり、カンボジアに行ったり、相変わらずサニーちゃんは世界各地を駆けまわっています。 地球上のあちこちで「地雷を捨てましょう」「使うことをやめましょう」という運動が広まり始めました。第1弾からサニーちゃんが訴え続けてきたことが、少しずつみ んなに広がりました。 本当に地球上からすべての地雷がなくなり、平和な世界が訪れることを祈りながら、地雷撤去活動は続いています。サニーを応援してください。 全・英訳付。 絵・葉祥明 文・柳瀬房子 英訳・相馬雪香 解説・長 有紀枝 監修・吹浦忠正	1999/7	平和	日本語	48	ハードカバー 大型本 30×21cm	自由国民社
絵本4-2	サニーのゆめ ありがとう地雷ではなく花をください	「地雷ではなく花をください」第4弾の完結編。 アフリカのアンゴラに行ったり、カンボジアに行ったり、相変わらずサニーちゃんは世界各地を駆けまわっています。 地球上のあちこちで「地雷を捨てましょう」「使うことをやめましょう」という運動が広まり始めました。第1弾からサニーちゃんが訴え続けてきたことが、少しずつみ んなに広がりました。 本当に地球上からすべての地雷がなくなり、平和な世界が訪れることを祈りながら、地雷撤去活動は続いています。サニーを応援してください。 全・英訳付。 絵・葉祥明 文・柳瀬房子 英訳・相馬雪香 解説・長 有紀枝 監修・吹浦忠正	1999/7	平和	日本語	48	ハードカバー 大型本 30×21cm	自由国民社
絵本4-3	サニーのゆめ ありがとう地雷ではなく花をください	「地雷ではなく花をください」第4弾の完結編。 アフリカのアンゴラに行ったり、カンボジアに行ったり、相変わらずサニーちゃんは世界各地を駆けまわっています。 地球上のあちこちで「地雷を捨てましょう」「使うことをやめましょう」という運動が広まり始めました。第1弾からサニーちゃんが訴え続けてきたことが、少しずつみ んなに広がりました。 本当に地球上からすべての地雷がなくなり、平和な世界が訪れることを祈りながら、地雷撤去活動は続いています。サニーを応援してください。 全・英訳付。 絵・葉祥明 文・柳瀬房子 英訳・相馬雪香 解説・長 有紀枝 監修・吹浦忠正	1999/7	平和	日本語	48	ハードカバー 大型本 30×21cm	自由国民社
絵本5	絵本 まっ黒なおべんとう	1945年8月6日広島市街に原爆投下。建物疎開に出かけたまましげるは二度と帰ってこなかった。おかあさんが見つけたしげるの遺体のかたわらには、あの日のまままっ黒 に炭化した弁当が。原爆資料館にある弁当箱にひめられた悲しいお話。 【朝の弁当】1945年8月6日、13歳の少年・しげる君は、母親が家庭菜園で採れた米や大豆、野菜で作ってくれた（決して豪華ではないが）愛情のこもった弁当を持って、建物疎開 の作業に出かけます。【被爆】8時15分、爆心地から近い場所で作業していたしげる君は原爆に被爆し、亡くなります。弁当の中身は熱線で見つ黒に炭化してしまいました。【母親 の悲しみ】しげる君の母親・シグコさんは、息子を探し、多くの遺体の中から炭化した弁当箱を抱えたしげる君の遺体を発見します。愛情を込めて作った弁当を食べることもで きずに亡くなった息子の姿に、深い悲しみを覚えます。【平和へのメッセージ】この話は、母親のシグコさんから語り継がれ、原爆資料館に展示される弁当箱の物語として、原爆 の悲惨さと、平和を願う思いを伝えています。	1995/4	平和	日本語	32	A4判上製 (ハードカバー製 本)	新日本出版社
絵本6	絵本 よっちゃんのビー玉	児玉辰春ぶん/北島新平え 広島に落とされた原爆でよっちゃんはなくなりました。「ビー玉がきれいじゃねえ」ということばを残して。ビー玉は兵隊にいったおにいさんが、よっちゃんのために見つけ てきてくれたものでした…。ビー玉に秘められた戦争の悲しみを描く大型絵本。 【兄との約束】戦地へ行くことになった15歳年上の実雄（さねお）お兄さんが、弟のよっちゃん（4歳）にきれいなビー玉をプレゼントします。【駅での別れ】兵隊に行くお兄さん を見送るため、よっちゃんは駅のホームへ。列車に駆け寄り、ビー玉で列車をたたきながら「いっちゃんやだ（行かないで）」と泣き叫びます。【原爆の悲劇】数日後、1945年8 月6日、広島に原爆が投下されます。爆心地から約2kmの場所では爆撃したよっちゃんは、お兄さんからもらったビー玉を握りしめたまま、短い生涯を閉じます。【平和へのメッ セージ】溶けたガラス瓶（ビー玉）は、よっちゃんの最後の言葉と共に、原爆の悲惨さと兄弟の愛情を伝えるシンボルとして、平和を願う人々に語り継がれています。	1996/7	平和	日本語	31	A4判	新日本出版社

絵本7	仲間ちゃんのさんりんしゃ	児玉辰春 作/おほまこと 絵 広島平和記念資料館に保管されている、1台の三輪車にまつわる実話をもとにした絵本。終戦から40年の年、さびた1台の三輪車が広島平和記念資料館に新たに展示されることになりました。三輪車を寄贈した信男さんが、原爆で亡くなった3歳だった長男の伸一くんについて、息子や孫たちに話しはじめます……。子を守る親の心、平和を願う切なる思いが胸にせまる絵本。 [主人公の仲間ちゃん]3歳の男の子。物不足の戦時中、叔父からもらった三輪車をとて喜び、大切にしていた。[被爆]1945年8月6日、仲間ちゃんは自宅前で三輪車に乗って遊んでいる最中に原爆に被爆。「水…」と言いながら、その日の夜に亡くなる。[埋葬]亡くなった仲間ちゃんは、一緒に遊んでいた友達の「きみちゃん」と手をつないだまま、三輪車と一緒に墓に埋められた。おじょうさんを置いて休養する。[40年後]家を立て替える際、信男さんが掘り起こすと、小さな骨と錆びた三輪車が出てくる。手をつないだままの姿に、信男さんは涙する。[平和へのメッセージ]孫たちに「こんなことがあってはならない」「三輪車で思いっきり遊べる平和な世の中によろね」と語りかけ、核兵器のない世界を願う親の深い愛情と平和への切なる思いが描かれる。	1992/6	平和	日本語	40	B5判	童心社
絵本8	へいわってすてきだね	へいわってなにか。ぼくは、かんがえたよ。ねこがわらう。おなかがいっぱい。やぎがのんびりあるいてる。ちやうめいそうがたくさんはい、よなぐにうまが、ヒビーンとなく。みんなのここから、へいわがうまれるんだね。これからも、ずっとへいわがつづくように、ぼくも、ぼくのできることからがんばるよ。 この詩は、日本の一番西にある、沖縄県与那国町立久部良小学校1年生の、安里有生くんが書いた「へいわってすてきだね」という詩です。沖縄県平和祈念資料館がつのった「平和のメッセージ」によせた詩です。2013年6月23日、沖縄祈念公園での「沖縄全戦没者追悼式」で安里くんが朗読しました。	2014/6	平和	日本語	32	A4判上製 (ハードカバー製本)	ブロンズ新社
絵本9	8月6日のこと	絵本作家中川ひろたかが、広島原爆で亡くなった自分の伯父、被爆者となった自分の母の体験を伝え、こどもたちへ問いかける。人気絵本作家コンビが挑む「核と平和」。 瀬戸内海はその日も おだやかな海でした。 作：中川 ひろたか 1954年埼玉県生。日本初の男性保育士として5年間保育園に勤務。絵本作家、詩人、ラジオDJ等多方面で活躍。作品に〈ビーマン村の絵本〉シリーズ、「わりとけっこう」等。絵本「ないた」日本絵本賞受賞。 絵：長谷川 義史 1961年大阪府生。2003年『おたまさんのおかいさん』講談社出版文化賞絵本賞。05年『いろはにほへと』日本絵本賞受賞。08年『ぼくがラーメンたべるとき』（教育画劇）日本絵本賞・小学館児童出版文化賞受賞。	2011/7	平和	日本語	32	B5判	河出書房新社
絵本10	ひろしまのピカ	記録のえほん ひろしまのピカ 丸木 俊 文・絵／丸木位里 協力 8月6日、ピカッと恐ろしい光が突き抜けた。人類初めての原子爆弾の光でした。数えきれない人の生命が失われ傷つきました。文章からだけでなく絵からも作者の平和への祈りが伝わってきます。欧米など十数カ国で出版。 記録のえほん1【全3巻】 戦争と平和、人の命の尊厳、公害を考える 本シリーズは、子どもたちが希望にむかって生きられるよう“平和で美しい世界へ”の願いを込めておくる『希望の絵本』です。時代をまっすぐに見つめ、伝えておかねばならない大切なテーマにとりくみました。	1980/6	平和	日本語	47	24×25cm	小峰書店
絵本11	おきなわ 島のこえ ヌチドゥ タカラ くいのちこそ たから>	記録のえほん おきなわ 島のこえ 丸木 俊、丸木位里 文・絵 沖縄戦で、沖縄の人たちは3人に1人が命を失いました。「原爆の図」の丸木夫妻が、戦争への怒りと、鎮魂と平和への願いをこめておくる絵本です。 第16回講談社絵本賞。 記録のえほん3【全3巻】 戦争と平和、人の命の尊厳、公害を考える 本シリーズは、子どもたちが希望にむかって生きられるよう“平和で美しい世界へ”の願いを込めておくる『希望の絵本』です。時代をまっすぐに見つめ、伝えておかねばならない大切なテーマにとりくみました。	1984/2	平和	日本語	47	24×25cm	小峰書店
絵本12	絵で読む 広島原爆	作：那須 正幹/絵：西村 繁男 原爆の開発から現在まで、原爆の全体像に迫る 広島で生まれて1歳で被爆をした著者が、生存者の証言をもとに、当時の広島町の様子、人々の暮らし、広島市内の被爆状況、そして、原爆の開発から投下に至ることになった歴史的背景、核兵器の原理、放射線障害など、風化させてはならないテーマを多角的に描きました。画家・西村繁男が、実際の町を取材し、複雑な内容を克明な絵で、子どもたちにも分かりやすく仕上げました。「広島原爆」の全体像を描いた科学絵本。	1995/3	平和	日本語	84	27×31cm	福音館書店
絵本13	かわいそうなぞう	つちやゆきお 文／たけもとというろ 絵 戦争中、上野動物園で三頭のゾウが殺されました。これは本当にあった悲しいお話をもとにした名作絵本です。 毎年終戦記念日に評論家の秋山ちえ子氏(2016年4月6日ご逝去)が平和への願いをこめてラジオで朗読し、テレビでも紹介されました。 [時代背景]太平洋戦争が激化し、日本本土への空襲が頻発する中、上野動物園でも猛獣が檻を破って逃げ出し、人々を襲うことが頻発されました。[殺処分決定]園のライオンやトラなどが次々と殺処分され、最後に残った3頭のゾウ(ジョン、トンキー、ウンリー)も処分されることになりました。[処分の試み]毒入りの餌を与えようしますが、「ゾウたちは賢く、餌を食べません。毒薬の注射を試みますが、ゾウの硬い皮膚に針が折れてしまいます。飼育員は泣く泣く、水も餌も与えない「絶食」という方法を選びます。[ゾウたちの最期]餌をねだるように芸をしたり、背中合わせに寄り添ったりしながら、ゾウたちは日に日に痩せ細り、餓死していきます。[飼育員の悲しみ]飼育員たちはゾウたちへの愛情から、耐えきれずに餌を与えようと思いますが、時すでに遅く、3頭は「ばんざい」のポーズのまま息絶えます。	1970/8	平和	日本語	32	B5判 (19×26.5cm)	金の星社
絵本14	トビウオのぼうやはびょうきです	いぬいとみこ 作／津田徳冬 サンゴ礁の美しい平和な海を、突然おそった恐ろしい光。灰の死をうけた海の生物たちは…。第五福竜丸の悲劇を知った著者が、核兵器廃絶への願いをこめて、平和の尊さをわかりやすく描いた絵本。 1954年3月1日ビキニ環礁での水爆実験に対する抗議の意を込めて製作された絵本。操業中の第五福竜丸が被爆。 [平和な海の描写]南のサンゴ礁で、トビウオの親子が楽しく暮らしていました。[突然の異変]遠く空が赤く染まり、恐ろしい光と音、そして津波のような衝撃が海を襲います。これはアメリカの水爆実験でした。[「死の灰」の襲来]実験後、海には死んだ魚たちが流れ着き、空から降ってきた「白い灰」を浴びたトビウオの坊やも、原因不明の病気にかかってしまいます。[坊やの苦しみと死]頭が痛いと言えぬ坊やを母親は助めますが、坊やは「お父さん、はやくかえってぼくのどぶのをみてよ!」と言い残し、亡くなってしまいます。父親も実験で命を落として死しました。[平和へのメッセージ]この物語は、人間だけでなく、自然や生き物も核兵器の犠牲になること、そして核実験の悲惨さを伝え、子どもたちに平和について考えるきっかけを与えています。	1982/7	平和	日本語	32	A4変型判 (23.7×24.3cm)	金の星社

絵本15	ぼくのだ！わたしのよ！ 3びきのけんかずきのかえるのはなし	作：レオ・レオニ/訳：谷川 俊太郎 虹ヶ池の真ん中の小さな島にけんかの好きな三匹の蛙が住んでいました。「これは僕のだ！」「あれは私のよ！」と年中けんかのしょうでした。そしてある日…この絵本の翻訳を担当した谷川 俊太郎氏は、カエルが人間の世界に引き込まれたような物語だと回顧します。 この物語をとおして、みんなで分か合うことの素晴らしいさを感じられることでしょう。 いつもけんかばかりの3匹のカエル:3匹のカエルは、池のほとりで「これはぼくの！」と、草や石、水など、何でもかんでも自分のものだとして主張してけんかばかりしています。 [ヒキガエルの登場と忠告]そのうえさらに、大きなヒキガエルがやってきて「みんな、みんなのものだぞ」と注意しますが、カエルたちは聞く耳を持ちません。[嵐の到来]ある日、突然の嵐がやってきて、3匹のカエルはヒキガエルの背中にしがみついたり嵐を乗り切ります。助けくれたヒキガエルへの感謝の気持ちから、カエルたちは「みんな、みんなのものよ」と、自分のものも分け与えることができるようになり、仲良く暮らすようになります。	1989年 発行	平和	日本語	32	28cm×22cm	好学社
絵本16	りんごがひとつ	作・絵：ふくだとくる おはなし：りんごがひとつ、落ちていました。動物たちは、みんなおなかをすかしています。「えい！」とおさるがりんごをとって逃げ出します。みんな、おおあわてでおさるを追いかけます。「まてー！」にげるおさる、追う動物たち。おさるはとうとう、がけつづちに追い詰められました。動物たちは口々におさるを脅しますが…。 出版社からの紹介 りんごがひとつおきていた。ヒヨコともつっこおさると、それを追いかけるみんなとの、ゆかいなカケヒキ。りんごを手にするのはだけ？後は思わずホロッとくる？結末が…ふくだとくるのおくる人気絵本です。	1996/5	平和	日本語	32	A4変型判 (24×21cm)	岩崎書店
絵本17	おかあさんのいのり	武蔵悦子・作/江頭路子・絵 その手がどうも鏡などにぎりませんように。世界中のこどもたちから平和をうばわないで。平和への願いをこめた絵本。 母の子どもへの愛情は万国共通。お母さんの気持ちを軸に、親からの愛、人類への愛を読む人々に伝える絵本です。 戦争体験者が高齢になり、この世を去ってしまった方々も多くいる中、次世代に「戦争を繰り返してはいけない」と静かに訴える絵本。 戦後80年、98歳なる武蔵悦子さんが2015年に出版なさった絵本。戦争体験者である著者の、母として平和を切実に願う気持ちが胸を打つ。	2015/7	平和	日本語	32	A4変型判 (24×21cm)	岩崎書店
絵本18	ピカドン たけやぶ	はらみちを 作・絵 広島にピカドンが落とされて、見たすかさず焼け野原に。人びとは小さなたけやぶに逃げこんだのですが…平和の大切さを伝えます。 爆心地から北東に約2.5キロ。住宅街の中に青々と茂った竹やぶがあります。中に防空壕があります。広島に原爆が投下された時、多くの人が避難しました。その実話を基にした絵本「ピカドン たけやぶ」。1983年の出版後、ドラマやミュージカルになりました。今でも「ピカドン たけやぶ合唱隊」が毎年開かれ、竹やぶを守る会もあります。 40年余り前、この竹やぶに隣接した民家に引っ越した作者、竹やぶの前を通るたびに合掌するお年寄りの姿を何度も見かけ、その中の一人、近所の女性に『どうしてお祈りしてんですか』とたずねると『口に出して言えない』と言われました。しかし徐々に話してもらえるようになり『原爆で大やけどした息子が、竹やぶがあって助かった』と聞きました。『逃げてきた人を竹やぶが母のよう抱いて、静かに癒やしてくれたんだ』と知ったのです。作品を制作するきっかけになりました。』ということです。	1983/7	平和	日本語	32	変型判 (24.7×21.7cm)	岩崎書店
絵本19	アオギリのねがい 被爆アオギリ二世物語	平和公園の被爆アオギリからとれた小さな種は、芽を出し、被爆アオギリ二世として旅立っていきます。被爆アオギリの願いが命とともに受け継がれていくことを願って創作絵本を作りました。 被爆アオギリ (のばくアオギリ、英: Phoenix Trees (またはChina Parasol Trees) Exposed to the A-bomb) とは、広島県広島市中区中島町の広島平和記念公園内に生育する、被爆した樹木のアオギリ。 爆心地から北東へ約1.3kmにあった旧広島通信局の中庭が被爆場所で、現在は平和記念資料館の北東側に移植されています。	1996/12	平和	日本語	32	変型判 (25×25cm)	広島平和教育研究所
絵本20	ぞうれっしゃがやってきた	戦争中、動物園の動物たちが殺されるなかで、戦後までぞうがいた名古屋の東山動物園…。合唱組曲やアニメ映画で話題の原作絵本。 小出隆司 作/箕田源二郎 絵 第二次世界大戦中、猛獣処分命令から逃れて名古屋の東山動物園で生き残ったゾウのエルドとマカニーを見るために、1949年に全国から子どもたちが集まった「ぞうれっしゃ」の実話をもとにした物語です。戦争中の動物処分や、戦後の平和への願い、子どもたちの夢を乗せて走った特別な列車を描いています。 [戦争とゾウたち]昭和初期、サーカスから東山動物園にやってきた4頭のゾウ（マカニー、エルド、キーコ、アドン）は子どもたちの人気者でした。しかし、戦争が激化し、猛獣の脱走による被害を防ぐため、全国の動物園に動物たちの処分命令が出されます。[奇跡の生還]上野動物園などで多くの動物が殺される中、東山動物園の園長や職員たちの必死の努力により、マカニーとエルドの2頭だけが終戦まで生き残ります。[子どもたちの願い]戦後、日本から「生き残ったゾウに会いたい」という子どもたちの声が寄せられますが、ゾウたちは高齢で弱っており、移動も困難でした。[「ぞうれっしゃ」の運行]そこで、子どもたちの夢を叶えるため、国鉄などが協力して特別列車「ぞうれっしゃ」を走らせ、全国から子どもたちを名古屋に運びます。[平和へのメッセージ]この物語は、戦争によって命が失われる悲しみの中で、生きる希望と平和の大切さを子どもたちに伝える作品として、絵本や合唱曲などで広く知られています。	1983/2	平和	日本語	32	A4変型判 (24.7×21.7cm)	岩崎書店
絵本21	へいわってどんなこと？	浜田桂子・作 へいわってどんなこと？「きっとね、へいわってこんなこと。せんそうをしない。ばくだんなんかおとさない。いえやまちはかいいしない……」 いろいろな視点から平和を考え、平和の意味を問います。本シリーズは、日本の絵本作家が中国と韓国の絵本作家に呼びかけ、三カ国12人の協力で実現した平和を訴える絵本です。三年以上の歳月をかけ、国を越えた意見交換を積み重ね、各国の歴史を踏まえて実現した画期的な取り組み。 [戦争とゾウたち]昭和初期、サーカスから東山動物園にやってきた4頭のゾウ（マカニー、エルド、キーコ、アドン）は子どもたちの人気者でした。しかし、戦争が激化し、猛獣の脱走による被害を防ぐため、全国の動物園に動物たちの処分命令が出されます。[奇跡の生還]上野動物園などで多くの動物が殺される中、東山動物園の園長や職員たちの必死の努力により、マカニーとエルドの2頭だけが終戦まで生き残ります。[子どもたちの願い]戦後、日本から「生き残ったゾウに会いたい」という子どもたちの声が寄せられますが、ゾウたちは高齢で弱っており、移動も困難でした。[「ぞうれっしゃ」の運行]そこで、子どもたちの夢を叶えるため、国鉄などが協力して特別列車「ぞうれっしゃ」を走らせ、全国から子どもたちを名古屋に運びます。[平和へのメッセージ]この物語は、戦争によって命が失われる悲しみの中で、生きる希望と平和の大切さを子どもたちに伝える作品として、絵本や合唱曲などで広く知られています。	2011/4	平和	日本語	36	B5変型判 (20.7×22.2cm)	童心社
絵本22	へいわってどんなこと？	浜田桂子・作 へいわってどんなこと？「きっとね、へいわってこんなこと。せんそうをしない。ばくだんなんかおとさない。いえやまちはかいいしない……」 いろいろな視点から平和を考え、平和の意味を問います。本シリーズは、日本の絵本作家が中国と韓国の絵本作家に呼びかけ、三カ国12人の協力で実現した平和を訴える絵本です。三年以上の歳月をかけ、国を越えた意見交換を積み重ね、各国の歴史を踏まえて実現した画期的な取り組み。 導入（戦争の描写）：爆弾が落ち、家や町が破壊される様子など、戦争の悲しい場面が描かれます。 転換（日常の平和）：その後、視点は変わります。「平和ってどんなこと？」と問いかけ、「おもいっきり遊べる」「朝までぐっすり眠れる」「お腹が空いたらご飯が食べられる」「みんなで歌が歌える」「嫌なことは嫌だと言える」といった、当たり前の日常が平和の姿として描かれます。 メッセージ：平和とは、単に戦争がないことだけでなく、一人ひとりの命が尊重され、「生まれてよかった」と思えること、そして、そうした当たり前の日常を守っていくことの大切さを伝えます。	2011/4	平和	日本語	36	B5変型判 (20.7×22.2cm)	童心社

絵本23	せんそうしない	文：谷川 俊太郎／絵：江頭 路子 ちようちよと　ちようちよは　せんそうしない　きんぎょと　きんぎょも　せんそうしない　くじらと　くじらは　せんそうしない　すずめと　かもめは　せんそうしない　すみれと　ひまわり　せんそうしない… 同じ種同士でも、たとえ種が違って、にんげん以外の地球上の生きものはだれもせんそうしません。その中で、なぜにんげんだけが、にんげんの大人だけが、せんそうをやめられないのでしょうか。日常の中で、子どもたちに戦争のこと、平和の大切さを伝えていくことはなかなか難しいことかもしれません。事情が複雑すぎていたり、身近に実際の体験者が少なくなっていたり、歴史上の出来事がありにも残酷なために、どこから、どんなことばで伝えたら良いのか迷ってしまうことを多いのではないかと思います。けれども本書を読むと、伝えるべきことは、ほんとうにシンプルなことなのだと気づかれます。最小限のことばで語られる詩人の谷川俊太郎さんのひとことひとことば、しっかりとした重さをもって読者の心にゆっくりとしみこんできます。そのことばとともに、江頭路子さんが描く子どもたちののびやかで生き生きとした姿を見ていると、大人が絶対にもっていかねばならないのは、ここに描かれているような子どもたちの何気ない日常と曇りのない笑顔ののだと強く感じるのです。難で難しい言葉ばかりが行きかって混乱を呼んでいる今だからこそ、大切なことはシンプルなことだと忘れないためにしっかりと受け止めていきたい1冊です。	2015/7	平和	日本語	28	AB判 (21cm×25.7cm)	講談社
絵本24	ちいちゃんのかげおくり	作：あまみ きみこ／絵：上野 紀子　あかね創作えほん (11) 太平洋戦争下の悲惨な出来事の中で、幼い「ちいちゃん」が家族を亡くし、空襲で一人ぼっちになってしまう物語です。物語の始まりは、出征するお父さんが家族に「かげおくり」を教え、幸せな思い出が描かれますが、空襲によって家族とはぐれてしまう悲劇へと展開します。最終的に、絶望の中でちいちゃんも亡くなってしまうという、戦争の悲惨さを静かに描いた作品です。 かげおくり 太平洋戦争下、出征前夜のお父さんとちいちゃん、お母さん、兄の4人が「かげおくり」という遊びを楽しみます。これは、地面に映った影をじっと見つめてから空を上げると、影が空に映るように見えるというものです。	1982/8	平和	日本語	56	B5変型判 (19cm×25.7cm)	童心社
平和1	広島・長崎　原子爆弾の記録	人間の想像をはるかに越えた広島・長崎の原爆被爆の惨状や、それによってもたらされた人間の悲劇を克明に記録した写真集。1984年刊普及版の新版。 1945年8月に広島（8月6日）と長崎（8月9日）に人類史上初めて投下された核兵器による壊滅的な被害の実態を伝えるもので、熱線・爆風・放射線による甚大な死者（年末までに広島で約14万人、長崎で約7.4万人）と後遺症、そして都市の壊失・崩壊という惨状を、写真や証言、資料などで後世に伝える歴史的記録です。これらは、核兵器の悲惨さ、平和の尊さを伝えるための重要な証拠であり、被爆者の証言や資料館での展示、NHKなどのアーカイブ映像などで伝えられています。 投下日時と概要：広島（8月6日午前8時15分、ウラン型）、長崎（8月9日午前11時2分、プルトニウム型）にB-29から投下。 被害の規模：爆心地周辺は壊滅、熱線、爆風、放射線で数万～数十万人が死傷し、都市が焦土化した。 被爆者の証言：放射線障害、精神的トラウマ、家族を失った悲しみなど、長期にわたる苦しみが続かれています。 物的証拠：爆心地の惨状を示す写真（一部AIでカラー化も）、資料館に保管された遺品や資料。 平和へのメッセージ：世界唯一の被爆国として、核兵器廃絶と恒久平和を訴える活動の根拠となっている。	1905/6	平和	日本語	387	大型本	平和のアトリエ
平和2	写真集　平和のモニュメント　藤田観龍	戦後50年。いのちの尊さにめざめ戦争の悲惨さを告発する、全国の大規模な戦争、沖縄戦、原爆による犠牲者たちの追悼碑、核兵器廃絶の運動と結んで建立された非核・平和都市宣言の記念碑163点に多数の碑文を添えて刊行する。 30年以上にわたり平和をテーマに国内外で撮影してきた集大成であり、戦争の記憶や核のない世界を訴える彫刻作品（モニュメント）を中心に構成され、北海道から沖縄、さらには海外の戦争犠牲地まで、各地に点在する平和のシンボルを記録した写真集です。この本は、戦争の悲惨さや平和の尊さを伝えることを目的とし、写真を通して人々の心に深く問いかける作品として評価されています。 テーマ：戦争の記憶、平和への希求、核廃絶、平和の尊さ。 被写体：世界各地（日本国内含む）の平和記念碑、戦争犠牲者を追悼するモニュメント、戦争マリアアの犠牲地など。 写真家：観龍氏（藤田観龍）のプロフィールが30年以上かけて撮りためた作品。 メッセージ：「平和のアート」「彫刻」「戦争の記憶」といった切り口で、静かに、しかし力強く平和を訴えかける。	1995/3	平和	日本語	158	大型本	新日本出版社
平和3	なぜ、おきたのか？ ーホロコストのはなし クライヴ・A・ロートン作／大塚信監修・訳 ／石岡史子・訳	ホロコストはなぜ起きたのか？ ヒトラーが権力を握り、ナチス政権が成立するに至った経緯から、強制収容所における悲劇、抵抗運動、戦争の終焉までを、豊富な写真と共に教訓を交えて解説する。 ホロコストは、単一の原因ではなく、長年にわたる反ユダヤ主義、第一次世界大戦後のドイツの政治的・経済的混乱、そしてアドルフ・ヒトラー率いるナチス党による人種差別的イデオロギーが複合的に組み合って起きた。主な原因は、[長年の反ユダヤ主義の存在]ユダヤ人に対する差別や迫害は、ナチス・ドイツ時代より遡り以前からヨーロッパに存在していました。これがホロコストの土壌となりました。[第一次世界大戦後の混乱と経済危機]第一次世界大戦に巻き込まれたドイツは、巨額の賠償金を支払う必要に迫られ、社会が極度に混乱しました。[イデオロギーとしてのユダヤ人ナチス化]、ドイツ国民の不満をそらすため、この経済危機や社会不安の原因はユダヤ人の陰謀にあると喧伝されました。これにより、ユダヤ人への憎悪が煽られました。[ナチス党の人種主義イデオロギー]アドルフ・ヒトラーとナチス党は、ドイツ民族を「優秀な人種」とし、ユダヤ人やスラブ民族などを「劣等な人種」とみなす人種差別的イデオロギーを掲げ、[ナチス政権の極端政治的な進取]、国民の支持を得たナチス党が政権を掌握し、激しい独裁体制を敷いたことで、この人種差別的な政策が徹くみで実行に移されました。[組織的な「最終的解決」の実行]ナチスは「ユダヤ人問題の最終的解決」と称して、ユダヤ民族の組織的かつ大規模な絶滅計画を推進しました。ガス室などの施設を備えた強制収容所が建設され、約600万人のユダヤ人が殺害されました。これらの要因が複合的に作用し、人類史上前例のない組織的な大量虐殺という悲劇を引き起こしたのです。	2000/7	平和	日本語	52	A4判ハードカバー	岩崎書店
平和4	ぼくたちわたしたちの生きた証 「若人の広場」旧蔵・戦没動員学徒遺品展	目次 はじめに・凡例・展示資料一覧（索引）、参考文献・協力者、寄贈資料目録、学徒動員動員とは 若人の広場とは、資料、回想記、資料（文書）、記録類、書簡・葉書、弔辞、追悼録 若くして戦争で命を落とした動員学徒たちの遺品を通して、彼らが確かに生きていた事実と、その青春の日々や無念を後世に伝えるための展示の名称で、立命館大学国際平和ミュージアムが2005年に開催した企画展が有名です。これは、単なる遺品だけでなく、その背景にある勤労生活や日常を克明に描き出し、戦争の悲劇と平和への思いを伝えることを目的としていました。 戦没動員学徒の遺品展：第二次世界大戦中、多くの学生が学業を中断し、徴兵の代わりに軍需工場などで動員され、命を落としました。 「若人の広場」：立命館大学内にあった学徒動員のための施設名で、そこから出た遺品（筆記用具、手紙、日用品など）が展示されました。 「生きた証」：彼らが残した品々を通じて、「私たちが確かに生きていた」「こんな若くして命を奪われた」というメッセージを伝え、戦争の記憶を風化させない、という強い意志が込められています。	2005/12	平和	日本語	123	A4判	立命館 国際平和ミュージアム
平和5	長崎の証言 写真集：長崎市被爆75周年記念事業：増補改訂版	長崎市被爆75周年記念事業の一環として、JRP日本リアリズム写真集団長崎支部から「写真集　長崎の証言　増補改訂版」が出版されました。 JRP日本リアリズム写真集団長崎支部が50年前に発行した「長崎の証言」の写真を含む計140点を、被爆者のメッセージと共に掲載している。 被爆詩人の故福田須磨子さん、核廃絶運動に尽力した故山口仙二さんら被爆者13人の写真を掲載。新たにメッセージの英訳を加えた。初版で未掲載だった写真や会員が長年撮り続けてきた写真のほか、被爆者をしのぶ活動、被爆樹、被爆遺構なども紹介している。	2020/7	平和	日本語	176	26×18cm	JRP 日本リアリズム写真集団 長崎支部
平和6	被爆体験と記録　平和を願って 川西市・猪名川町原爆被害者の会	「被爆体験と記録」の序文を抜粋 被爆体験と記録の発行にあたり　川西市・猪名川町原爆被害者の会会長　釘本尚典 当会は、昭和二十三年四月十七日に発足しました。 その間、川西市、猪名川町のご支援を受け会員相互の親睦、被爆者医療及び福祉への関心を高めると共に、被爆は我々を最後にとの願いから、世界に向けて核廃絶を発信、そして、平和運動への参加、又、地域での「語り部」を行ってまいりました。 これまで、人類史上では一度もなかった原爆での悲惨な状況を体験した者として、後世に伝え残すことが平和への道に繋がるとして、被爆体験集の出版を行うことが決まり、会員の皆様に寄稿を依頼致しました。 この被爆体験集の発行に心血を注がれました藤本前会長は志半ばで鬼籍に入られました。深く哀悼の意を表します。会員の高齢化が進む中で、早くお届けすることを第一義として、発行に踏み切りました。発行にあたっては会員の皆様、そして各方面からご支援いただきました方々に感謝申し上げます。平成二十一年十月	2009/10/0	平和	日本語	161	26×18cm	川西市・猪名川町 原爆被害者の会

平和7	真夏の戦争記念館 戦争展 第4回・第5回全記録 読売新聞大阪本社社会部編集	この本は、読売新聞大阪本社社会部が主催した「戦争展」の第4回・第5回の全記録をまとめた記念冊子です。 「戦争展」は、戦争の悲惨さや平和の大切さを伝えるために開催された展覧会で、実際の戦争体験者や遺族、一般市民から寄せられた絵画・写真・証言などが展示されました。 展覧会で展示された絵画や写真の図版 体験者や遺族の証言・手記 展覧会の企画・運営に関する記録 展示内容の解説や編集部による考察 特に、戦争体験を「目で見える」形で伝えることに重きを置いており、戦争の記憶を後世に伝えるための貴重な資料となっています。	1981/8	平和	日本語	152	B5変型判 (18.5cm×25.7cm)	読売新聞大阪社会部
平和8	新版 平和博物館戦争資料館ガイドブック 歴史教育者協議会 編	この本は、読売新聞大阪本社社会部が主催した「戦争展」の第4回・第5回の全記録をまとめた記念冊子です。 「戦争展」は、戦争の悲惨さや平和の大切さを伝えるために開催された展覧会で、実際の戦争体験者や遺族、一般市民から寄せられた絵画・写真・証言などが展示されました。 展覧会で展示された絵画や写真の図版 体験者や遺族の証言・手記 展覧会の企画・運営に関する記録 展示内容の解説や編集部による考察 特に、戦争体験を「目で見える」形で伝えることに重きを置いており、戦争の記憶を後世に伝えるための貴重な資料となっています。	2000/7	平和	日本語	260	B5変型判 (18.5cm×25.7cm)	読売新聞大阪社会部
平和9	歩兵第七十聯隊 一兵隊の綴る戦記一	編集発行人 納富壽生 歩兵第170連隊（ほへいたい170れんたい、歩兵第七十聯隊）は、大日本帝国陸軍の歩兵連隊のひとつ。歩兵第170連隊、創設1938年、廃止、1943年6月。 部隊の変遷と戦闘:1943年（昭和18年）1月に南海支隊の救援で激戦（ブナ・ギルワ河方面）に参加し、その後ラエ・サラモア方面へ転進、最終的にラバウルで復員（解散）するまでの連隊の行動が記録されています。 兵士の視点:「兵隊の綴る戦記」とあるように、将校だけでなく、一兵卒の目線で、過酷な状況、部隊の苦難、そして死と隣り合わせの日常が克明に記されています。 貴重な史料:部隊の動きや戦闘の記録は、軍の公式記録とは異なる。現場の兵士の生々しい声や感情が伝わる史料として、戦史研究や慰霊活動で参照されることが多いです。 文献の存在:国立国会図書館のデジタルコレクションなどで、この戦記の目録や一部が公開されており、歩兵第271連隊などの関連文獻も「兵隊の綴る戦記」シリーズとして存在します。 「歩兵第七十聯隊 一兵隊の綴る戦記一」は、太平洋戦争での過酷な戦場を経験した歩兵第170連隊の兵士たちが、自らの手で記録した実体験に基づく戦いの記録であり、部隊の歴史と兵士たちの想いを伝える重要な文獻です。	1985/8	平和	日本語	295	菊判 (21.5×15.5cm)	経済ハイライト
平和10	平和へ	かけがえない地球、生命、愛する人。平和はみんなのちがいをみとめること心うつ文と一流カメラマンの写真による写真絵本。 キャサリン・スコールズ 作/上遠恵子 訳/田沼武能 写真 キャサリン・スコールズ (Katherine Scholes) オーストラリア出身の児童文学作家で、特に写真絵本『平和へ (Peace) 』で知られています。彼女の作品は、生命の尊さや多様性の受容、平和への願いなどをテーマに、心に響くメッセージと美しい写真で描かれ、子供から大人まで感動を呼んでいます。特に『平和へ』は、世界各地の子供たちの写真と共に「平和とは違いを認め合うこと」といった普遍的なメッセージを伝える感動的な絵本です。 田沼武能（たぬまたけよし 1929-2022）写真家 写真家として初め文化勲章を受賞した。田沼さんは昭和4年、東京・浅草の写真館の家に生まれる。東京写真工業専門学校卒業後、写真家の木村伊兵衛さんに師事し、東京の下町などを撮影。作家や芸術家の肖像も多く手がける。	1995/4	平和	日本語	40	A4変型判 (21.5×15.5cm)	岩崎書展
平和11	影山光洋写真展 知っていますか？日本に戦争があった時代を	影山光洋は、近代日本を代表する報道写真家のひとりである。 展覧会 影山光洋写真展 知っていますか？ 日本に戦争があった時代を（立命館大学国際平和ミュージアム、2003年） 昭和を代表する報道写真家である影山光洋（1907-1981）が撮影した、戦中・戦後の庶民の暮らしと家族の記録に焦点を当てた写真展です。この写真展は、2003年に立命館大学国際平和ミュージアムで開催された特別展です。影山光洋は朝日新聞社の報道カメラマンとして活躍しましたが、この写真展では公的な戦況報告だけでなく、自らの家族や身の回りの日常を執拗に記録し続けた作品が中心となっています。 目次[はじめに][目次][凡例][父・影山光洋について（影山智洋）][1 戦争の足音][2 戦時下の暮らし][3 戦争の泥沼][4 戦争の偏見][5 影山家の暮らし][写真の説明][用語解説][影山光洋 略年譜][写真一覧]	2003/10	平和	日本語	95	A4判 (30×21cm)	立命館大学国際平和ミュージアム
平和12	知覧特別攻撃隊 写真・遺書・日記・手紙・記録・名簿	村永薫 編 薩摩半島の知覧に陸軍の特攻基地があった。今そこには知覧特攻平和会館が建立されている。平和会館に展示されている若き勇士たちの遺書、日記、手紙などを編集した。 太平洋戦争末期、知覧基地（現在の南九州市）から出撃し散華した陸軍特別攻撃隊員たちの、生きた証（写真、遺品、手紙、日記、出撃記録、氏名）を後世に伝えるための資料集・記録であり、彼らの若さ、郷愁、家族への思い、そして特攻という過酷な運命に直面した人間性と「命の尊さ」を伝える貴重な文獻です。	1989/4	平和	日本語	95	A5判 (21×14.7cm)	ジャプランブックス
平和13	ピカドン だれも知らなかった、子どもたちの原爆体験記	50年ぶりに発見された、広島の小生が書いた15編の作文。だれも知らなかった、子どもたちの原爆体験記。 本書は、2000年に広島県広島市立己斐（こい）小学校内の倉庫から約50年ぶりに発見された作文集「原爆の思い出」をもとに編集したものである。文集は5～6年生の児童が、4～6歳だった被爆当時の思い出を書いた作文からなっている。原本はA4原稿用紙を二つ折りにしたものを厚表紙で製本しており、表紙には「昭和二十六年十月／原爆の思い出／広島市立己斐小学校」と記されている。本書では、収められていた34編の作文のうち、作者の了解の得られた15編を取録した。現代の子どもたちにも読みやすいように一部表記はあらため、また、脱字、判読不能の部分は作者の了解を得て補ったうえ、適宜ふりがなをつけた。（編集部）	1989/4	平和	日本語	80	B6 (19×13.7cm)	講談社
平和14	ヒロシマ 広島平和記念公園	広島平和記念公園の案内ガイドブック写真集 発行・制作/アート印刷株式会社 撮影/赤塚弘光 平和記念公園は、旧太田川(本川)が宍安川と分岐する三角州の最上流部に位置し、原爆死没者の慰霊と世界恒久平和を祈念して開設された都市公園です。 この場所は、江戸時代から昭和初期に至るまで広島市の中心的な繁華街でしたが、昭和20年(1945年)8月6日に人類史上初めて落とされた一発の原子爆弾により、一瞬のうちに破壊されました。被爆後、昭和24年(1949年)8月5日に公布された「広島平和記念都市建設法」に基づき、爆心地周辺を恒久平和の象徴の地として整備するため、昭和25年(1950年)から平和記念公園及び施設の建設が進められ、昭和30年(1955年)に完成しました。 公園内には、原爆ドーム、広島平和記念資料館、平和の願いを込めて設置された数々のモニュメント、被爆したアオギリなどがあります。	1989/4	平和	日本語	80	B6 (19×13.7cm)	講談社

平和15	アーロン収容所 西欧ヒューマニズムの限界	会田雄次：著 英軍は、なぜ日本軍捕虜に家畜同様の食物を与えて平然としていられるのか。女性兵士は、なぜ捕虜の面前で全裸のまま平然としていられるのか。ビルマ英軍収容所に強制労働の日々を送った歴史家の鋭利な筆はたえず読者を驚かせ、微苦笑させつつ西欧という怪物の正体を暴露してゆく。激しい怒りとユーモアの見事な結合がここにある。 ビルマで降伏した日本兵が辛酸を舐めたことは、歴史学者の会田雄次が1963年に『アーロン収容所』を著して紹介し、英国軍主体の連合国軍の、日本人への報復や人種差別が原因の捕虜虐待の歴史が21世紀になっても言及される。	1989/4	平和	日本語	80	B6 (19×13.7cm)	講談社
平和16	夕風の街 桜の国	著者：こうの史代 昭和30年、灼熱の閃光が放たれた時から10年。ヒロシマを舞台に、一人の女性の小さな魂が大きく揺れる。最も弱い者たちにとって、戦争とは何だったのか……。原爆とは何だったのか……。漫画アクション掲載時に大反響を呼んだ気鋭、こうの史代が描く渾身の問題作。 「この世界の片隅に」2016年公開の日本の長編アニメーション映画。こうの史代の同名漫画を原作に、片淵須直が監督と脚本を務めた。「この世界の片隅に」は、2016年公開の日本の長編アニメーション映画。こうの史代の同名漫画を原作に、片淵須直が監督と脚本を務めた。	2004/10	平和	日本語	103	A5 (21×15cm)	双葉社
平和17	ヒロシマ・ノート	大江健三郎：著 広島の悲劇は過去のものではない。1963年夏、現地を訪れた著者の見たものは、十数年後のある日突如として死の宣告をうける被爆者たちの“悲惨と威厳”に満ちた姿であり医師たちの献身であった。著者と広島とのかわりりは深まり、その報告は人々の胸を打つ。平和の思想の人間的基盤を明らかにし、現代という時代に対決する告発の書。	1965/6	平和	日本語	206	並製 (ソフトカバー) (17.3×10.7cm)	岩波新書
平和18	YES! HIROSHIMA NAGASAKI GITEISHO ～ヒロシマ・ナガサキ議定書を読む絵本～	黒田征太郎：絵 松上三智：文 畠崎雅子：翻訳 出版者：Yes!キャンペーン実行委員会 英文併記 核兵器。を世界から無くすための約束をまとめた「ヒロシマ・、ナガサキ議定書」を広く知っていただきたいという、イラストレーター黒田征太郎さんの願いによって形になったものです。	2009/8	平和	日本語 (英文併記)	59	A5 (21×15cm)	Yes!キャンペーン実行委員会
平和19	1992ナガサキ 平和のあゆみ	ご挨拶 本協会が58年2月に発足してから、本年度は10周年を迎えることになりました。（以後続く）。 〔目次〕 公益財団法人 長崎平和推進協会/1設立の意義2設立の理由3事業4組織5会員制度6役員名簿 / 1公益財団法人 長崎平和推進協会 事業概要1発刊事業(1)会報の発行2英文会報の発行(3)パンフレットの発行(4)ブックレットの発行(5)「ピース・トークきみたちにつたえたい」Ⅰ・Ⅱ・Ⅲの発行/2平和意識啓発事業(1)被爆体験の継承2移動原爆展(3)原爆映画のフィルム・写真パネルの貸し出し(4)講演会の開催(5)平和文化市民講座/3資料収集事業(1)(2)(3)/4国際平和交流事業(1)～(8)5平和関係団体との交流(1)～(7)6部会事業(1)～(6)7収益事業/平和推進会 これまでのあゆみ/「ピースメッセージャー」受章/Ⅱ長崎市の平和推進事業/原爆写真展の開催(1)～(4)ア～エ2核兵器廃絶に向けての都市連帯推進計画(1)～(3)3世界平和連帯都市市長会議(1)～(4)4核実験への抗議5国連軍縮特別総会への対応(1)～(3)/Ⅲ関連施設の説明1長崎国際文化会館2長崎市平和会館/Ⅳ資料編1長崎市民平和憲章2平和宣言3原爆に関する参考図書4国際文化会館を訪れた外国要人5平和関係団体名簿6原爆関係施設一覧表7寄付者一覧/平和基金/入会案内	1992/3	平和	日本語	150	(21×14.5cm)	財団法人 長崎平和推進協会
平和20	戦後50年	散戦から阪神淡路大震災までを写真と文章で詳細に記述したムック。 愛想を振りまく当時人気だったタレントの顔も、凶悪な事件として記憶される犯人の立ち姿にも、全編不思議なノスタルジーが漂っています。 毎日新聞社が1995年の戦後50年を機に出版した、未公開写真を中心に構成された戦後史を振り返る大型ムック（雑誌と書籍の中間形式の出版物）です。各年ごとの出来事、文化、芸能などを豊富な写真と記事で紹介し、当時の社会の様子をノスタルジックに伝えています。 未公開写真の掲載：新聞社ならではの膨大な写真アーカイブから、これまで公開されていなかった貴重な写真が多数収録されています。 年表形式：戦後から1995年までの50年間を時系列に沿って振り返り、出来事を追体験できます。 多彩なテーマ：事件、文化、芸能、世相など、多岐にわたる内容を網羅しています。 ボリューム：400ページを超える大判（A4サイズ）で、読み応えがあります。	1995/3	平和	日本語	404	大型本	毎日新聞社
平和21	写真集 子どもたちの昭和史	著者：「子どもたちの昭和史」編集委員会（編者◎） 昭和初年から現在までの子どもたちの姿をたどる写真集。 昭和史を子どもたちの眼で見おすと、どう見えてくるだろうか。このことをみんな考えてみるためにつくられた学校必備書。ロングセラー。 編集委員＝相川充弘・宇崎真・根岸泉・野田耕造・本多道彦・松浦厚 【子供中心の視点】昭和の田園風景や街角で、子供たちが主体となって遊ぶ姿が中心に写っています。[「素朴さ」と「躍動感」]今では見られないような無邪気な表情や、土の匂いがするようなどかな風景、元気がいっぱい遊びの瞬間が切り取られています。[時代背景の記録]単なる子供の写真集ではなく、当時の社会状況や人々の生活様式、文化（遊びなど）を伝えるルポルタージュ作品としての側面も持ちます。[懐かしさと教育的価値]昭和を生きた人々には懐かしさを、若い世代には写真を通して「知られざる昭和」を伝える役割も果たしています。	1984/6	平和	日本語	192	A4変 (29×22cm)	大月書店
平和22	峠三吉 詩集にんげんをかえせ	28歳で被爆し、36歳で世を去った詩人・峠三吉（とうげさんさち）。人間の尊厳を根こそぎ奪ったものの怒りをうたいあげた『原爆詩集』、ほかに、自然と女性への愛をうたった抒情詩の数かず。平和を願い、たたかきに身を投じた詩人の叫び。増岡敬和編・解説。 「にんげんをかえせ」の一文で知られる『原爆詩集』を著した広島市の詩人、峠三吉（1917～53年） 『「にんげんをかえせ」の詩』詩集の表題作であり、最も有名な詩。被爆体験から生じた「父をかえせ、母をかえせ、…へいわをかえせ」という痛切な叫びが繰り返され、失われた命と平和への渴望が表現されています。[被爆体験の記録]被爆者の苦しめ、死の恐怖、放射線の影響などが、詩人の生々しい視点と言葉で描かれています。[反戦・平和への訴え]詩人自身が反戦・平和運動の活動家でもあったことから、そのメッセージは単なる体験の記録に留まらず、核兵器廃絶と平和な世界への強い決意表明となっています。[人間の尊厳への問い]奪われた命だけでなく、人間の尊厳そのものを取り戻そうとする力強いメッセージが込められています。【本名】峠三吉（とうげ みつよし）。1917年生まれ、1953年没。広島で被爆後、36歳の若さで亡くなりました。[詩作活動]被爆の体験を基に詩を書き始め、『原爆詩集』としてまとめられ、多くの人々に読まれました。	1995/1	平和	日本語	150	四六判 (19×13cm)	新日本出版社

平和23	知覧特攻基地 知覧高女なでしこ会編	肉親を思い恋人に思いを寄せながら飛び立っていった特攻隊員の魂の叫びと、出撃直前までの隊員たちのありのままを記した、知覧高女性心の軌跡-知覧特攻基地をめぐる別離と哀切の感動の記録。 〔女学生たちの日記〕戦争末期、知覧基地で連日繰り返される特攻隊員の出撃を目の当たりにした女学生たちが、当時の心情や隊員との交流を綴った日記が中心となっています。〔隊員との交流〕被女たちは特攻隊員のために死産や截肢、兵舎の掃除などをこなし、出撃前のわずかな時間、彼らと交流しました。隊員たちは「お母さん」と慕われた高屋重堂の女将・高瀬トメだけでなく、被女たち「なでしこ隊」の少女たちとも心を温めていました。〔出撃の様子〕出撃当日、女学生たちは神社の桜花を隊員に手渡したり、マスコット人形を愛機に貼り付けたりして、笑顔で「元気で生き返るんだよ」と声をかけながら見送りました。〔隊員の素顔と苦悩〕本の中では、明日死ぬかもしれないという殺伐とした状況下での隊員たちの人間的な一面や、家族・恋人への思いを胸に秘めた壮絶な苦悩が描かれています。〔戦後の記録〕戦後、生き残った女学生たちが「知覧高女なでしこ会」を結成し、自分たちの体験や亡くなった隊員たちの遺書・記録をまとめ、後世に戦争の悲惨さと平和の尊さを伝えるために出版しました。	1979/2	平和	日本語	281	上製 ハードカバー (19.3×14cm)	新日本出版社
平和24	語りつぐ戦争 1000通の手紙から 朝日放送編	2005年夏、戦後60年を記念して朝日放送（ABC）は「語りつぐ戦争」という特別番組を放送した。スタッフに寄せられた1000通を超える戦争体験者の手紙から74通を収録。戦争の記憶がひとりひとりと、とっていかにか奇烈で、重いものが……。本書はあなたへの手紙なのです。 目次〔序にかえて---鳥越雄太郎〕【1 大阪大空襲 火の中を風上へ／軍需工場女性リーダーの悲惨な死／半世紀前の記憶／大丸百貨店の地下へ／煙の中の大声と地下鉄に救われた／空襲で最愛の母が……1／等12編】【2 各地での空襲・被災今も消えない傷跡（東京）／戦災を思い出して（高松）／死体の臭い（三重）／塩釜の空襲／焼野原になった鹿児島／母を探して泣いた10歳の夏（広島）／等22編】【3 銃後の生活・疎開・学徒動員 絵の具まで食べちゃった／滑走路という名の田んぼ／死を見ても何の感情も湧かなかった／学徒動労動員〜重労働と空襲／敗戦からアメリカン・ドリームへ／等23編】【4 国内の車関係者 黒髪キリリ女子挺身隊／阿鼻叫喚・沖縄／対戦車自爆訓練／陸軍病院看護婦として／特別ライダー訓練／等7編】【5 引き揚げ 三八度線を越えて〜八歳の記憶／あかね空／ハルビンから帰国するまで／開拓団の自決／母が松達を満州からつれ帰った／5編】【6 外地の車関係者 フォリピンにいた私たち女子車輦／ネグロス島の山中に立てこもる／死の淵から奇跡の生還／書き残して置きたい戦友の姿／戦犯憲兵シベリアより帰還す／5編】【編者あとがき】	1979/2	平和	日本語	242	上製 (ハードカバー) A5判 (21×15.3cm)	新日本出版社
平和25-①	生命ある限り 21世紀への伝言	兵庫県原爆被害者団体協議会（兵庫県被団協）が発行した体験手記集の書名です。 1991年に最初の版が、1997年には続編となる『生命ある限り 21世紀への伝言』が出版されています。 この書名は、被爆者の方々が「命ある限り、核兵器のない世界の実現のために、原爆被害の実相を世界中に語り続け、訴え続ける」という強い決意と活動姿勢を表しています。 兵庫県被団協は、日本被団協（日本原水爆被害者団体協議会、2024年にノーベル平和賞受賞）を構成する各地の団体の一つで、核兵器廃絶と被爆者援護法の制定促進などを目的に活動しています。	1997/1/0	平和	日本語	242	上製 (ハードカバー) A5判 (21×15.3cm)	兵庫県原爆被害者団体協議会
平和25-②	生命ある限り 21世紀への伝言	兵庫県原爆被害者団体協議会（兵庫県被団協）が発行した体験手記集の書名です。 1991年に最初の版が、1997年には続編となる『生命ある限り 21世紀への伝言』が出版されています。 この書名は、被爆者の方々が「命ある限り、核兵器のない世界の実現のために、原爆被害の実相を世界中に語り続け、訴え続ける」という強い決意と活動姿勢を表しています。 兵庫県被団協は、日本被団協（日本原水爆被害者団体協議会、2024年にノーベル平和賞受賞）を構成する各地の団体の一つで、核兵器廃絶と被爆者援護法の制定促進などを目的に活動しています。	1997/1/0	平和	日本語	242	上製 (ハードカバー) A5判 (21×15.3cm)	兵庫県原爆被害者団体協議会
平和25-③	生命ある限り 21世紀への伝言	兵庫県原爆被害者団体協議会（兵庫県被団協）が発行した体験手記集の書名です。 1991年に最初の版が、1997年には続編となる『生命ある限り 21世紀への伝言』が出版されています。 この書名は、被爆者の方々が「命ある限り、核兵器のない世界の実現のために、原爆被害の実相を世界中に語り続け、訴え続ける」という強い決意と活動姿勢を表しています。 兵庫県被団協は、日本被団協（日本原水爆被害者団体協議会、2024年にノーベル平和賞受賞）を構成する各地の団体の一つで、核兵器廃絶と被爆者援護法の制定促進などを目的に活動しています。	1997/1/0	平和	日本語	242	上製 (ハードカバー) A5判 (21×15.3cm)	兵庫県原爆被害者団体協議会
平和25-④	生命ある限り 21世紀への伝言	兵庫県原爆被害者団体協議会（兵庫県被団協）が発行した体験手記集の書名です。 1991年に最初の版が、1997年には続編となる『生命ある限り 21世紀への伝言』が出版されています。 この書名は、被爆者の方々が「命ある限り、核兵器のない世界の実現のために、原爆被害の実相を世界中に語り続け、訴え続ける」という強い決意と活動姿勢を表しています。 兵庫県被団協は、日本被団協（日本原水爆被害者団体協議会、2024年にノーベル平和賞受賞）を構成する各地の団体の一つで、核兵器廃絶と被爆者援護法の制定促進などを目的に活動しています。	1997/1/0	平和	日本語	242	上製 (ハードカバー) A5判 (21×15.3cm)	兵庫県原爆被害者団体協議会
平和26	ヒロシマ あの時、原爆投下は止められた	『ヒロシマ あの時、原爆投下は止められた いま明らかになる悲劇の真実』TBSテレビ『ヒロシマ』制作スタッフ編 文化庁芸術祭大賞を受賞したTBSテレビの戦後60年特別企画『ヒロシマ』の書籍。番組の進行役を担った筑紫哲也と広島市出身の女優・綾瀬はるかを、本書でも章の冒頭など随所に登場させ「絶やすることなく語り継ぐ」という番組の主旨に沿い、若い人たちが原爆を知る参考の書をめざした。「あのとき原爆投下は止められた」という仮説に基づいて、番組スタッフがアメリカ、ドイツ、ロシアで取材した科学者、歴史学者、政治家の証言と、広島市民が爆発直後に見た光景の証言から、原爆投下までの経緯、原爆による被害の実態を、中学・高校生向けに、わかり易く解説。ドラマ仕立てで再現したアメリカ政府内の投下推進派と反対派のやりとりを、本書では劇画構成にし、番組の映像、CG画像、写真を満載で、「見る」も充実させた。番組の招きで広島を訪れた、原爆の開発、投下、その威力「撮影」した科学者ハロルド・アグニュー博士。アグニュー博士と被爆者の対面で大きく問題提起された日米の意識の差。番組の進行役を務めた筑紫哲也氏と『戦争を記憶する 広島・ヒロコーストと現在』などの著者で東京大学大学院教授の藤原鼎一氏との対談『原爆をめぐる過去、現在、未来』では、この意識の違いがどこから生じたのか、乗り越える方策を検討。	2006/7	平和	日本語	64	B5判並製 (ソフトカバー) (25.7×18.2cm)	毎日新聞社
平和27	ながさき 原爆の記録 THE RECORDS OF THE ATOMIC BOMBING IN NAGASAKI	長崎市編 発刊の言葉 長崎市長 昭和20年8月9日、午前11時2分。長崎の上空で爆発した一発の原子爆弾は、強烈な熱線と爆風によって、見わたす限りのあらゆるものを破壊し、焼き尽くし、一瞬にして7万4千人もの尊い生命を奪い、また7万5千人にも及ぶ人々を傷つけました。そのうえ恐るべき放射線は、無傷の人々を次々と死に至らしめたばかりでなく、原爆後障害として今なお多くの人々を苦しめています。（以後続く）。	1992/8/0	平和	日本語	64	B5判並製 (ソフトカバー) (25.7×18.2cm)	財団法人 長崎平和推進協会

平和28	広島のおばあちゃん —平和学習— 中・高校生、社会人向け 過去 現在 未来	鎌田七男：著 IPPNW核戦争防止国際医師会議HPにて、日本語版（改訂版）が全ページダウンロード可能。 広島我被爆体験を持つ「おばあちゃん」の話を通して、原爆投下という「過去」から、現代の平和への取り組み、そして将来に平和な世界を築くための「未来」へと、学びを深めることを目的としています。 平和学習のポイント 過去（原爆投下）：被爆体験や原爆の惨状を知る。〔広島平和記念資料館〕の資料や、〔鎌田七男氏の本〕に描かれる被爆者の体験談を通して、その悲惨さを理解する。 現在（戦争と平和）：被爆から立ち直った広島の実状と、今も世界のどこかで起きている戦争、さらには「被害者」としての視点と「加害者」としての視点の両方から戦争を学び、平和の尊さを考える。 未来（平和への誓い）：核兵器のない世界をめざし、平和を希求する声を世界に届ける活動や、二度と同じ過ちを繰り返さないための「誓い」を立てる。	2005/6	平和	日本語	119	(30×21cm)	鎌田七男 シフトプロジェクト
平和29	小杉三朗 乾漆雕塑展	小杉三朗乾漆雕塑展SABURO KOSUGI Beyond time and space of 1200 years/中国美術館NAMOCNational Art Museum of China (2005年4月16日-4月25日) 小杉三朗乾漆雕塑展（中国語）：小杉三朗乾漆彫刻展）のパンフレット 川西市平和モニュメント「陸」も掲載している。	2005/4	平和	日本語	60	(30×21cm)	中国美術館
平和30	Saburo Kosugi SABURO KOSUGI DIE WELT DER TROCKENLACK-SKULPTUREN (小杉三朗乾漆彫刻の世界)	SABURO KOSUGI DIE WELT DER TROCKENLACK-SKULPTUREN(ドイツ語：小杉三朗乾漆彫刻の世界)小杉三朗 乾漆の世界 ー1200年の時空を越えてー サブろう コスギ 乾漆彫刻展のパンフレット サブろうコスギはアジアに伝わる伝統文化である乾漆技法を発展させることによって世界の彫刻界に日本の新たな伝統美を伝え、モダンな現代彫刻にアジアの伝統を根づかせることに成功した・・・とヨーロッパの美術専門家から絶賛され、その功績にフランスからコマンドゥーリー十字勲章・マエストロ(ヨーロッパ最高称号アカデミ国際学士院)を贈られました。 今、サブろうコスギの乾漆は、「世界の乾漆」として脚光を浴びております。	1998/0/0	平和	日本語	79	(29×22.7cm)	Atelier: Mr.Saburo Kosugi
平和31	芦屋市平和記録集 たゆまぬ平和への歩み	芦屋市では、戦後70年と芦屋市議会『非核平和都市宣言』決議30周年に当たる平成27年10月に、恒久平和を祈念して、非核平和都市宣言の記念銘板を設置しました。その後、次世代への継承をテーマに、戦争を体験された方々の証言を記録する活動を進め、この度、平和記録集として取りまとめ、平成29年3月に発行しました。	1997/3/0	平和	日本語	174	A4判 (29.2×20.6cm)	芦屋市・芦屋市 教育委員会
平和32	図録 ヒロシマを世界に The Spirit of Hiroshima 広島平和記念資料館	旧公式図録 ヒロシマを世界に 原爆被害や被爆前後の広島の世界史などについて、図版と詳しい解説を掲載しています（日英併記）。	1991/3/0	平和	日本語 (日英併記)	127	A4判 (29.7×21cm)	広島平和記念資料館
平和33	平成25年版 原爆被爆者対策事業概要	目次 第1長崎市の概要/第2原子爆弾の投下と被害状況/第3原爆被害者対策/第4慰霊と追悼/第5平和推進/第6原爆被害者対策事業のあゆみ/第7市民局原爆被害対策部の機構・予算/第8 援護・平和関係機関等/資料	2013/7/0	平和	日本語	272	A4判 (29.7×21cm)	長崎市 市民局原爆被爆対策部 調査課
平和34	原爆ドーム Hiroshima Peace Memorial (Genbaku Dome)	政策：産興株式会社 監修：広島市・財広島平和文化センター はじめに/世界遺産条約と世界遺産/広島県物産陳列館の建設/原爆ドームへ/二度の保存工事/世界遺産一覧表への登録/年表 世界遺産登録への経緯/保存管理のため/資料 広島県物産陳列館設計図/広島県物産陳列館の概要/資料 原爆ドーム測量図/原爆ドーム略年表 英文併記 「世界遺産原爆ドーム」(1997/1刊 T0916.6H055)の改訂版	1998/2	平和	日本語 英文併記	20	A4判 (29.7×21cm)	産興株式会社
平和35	実録太平洋戦争1 真珠湾奇襲から珊瑚海海戦まで	〈第1巻〉真珠湾奇襲から珊瑚海海戦まで（1960年）監修：伊藤正徳ほか 目次 「ニイタカヤマノボレ」/真珠湾上空六時間（酒田美津雄当時ハワイ攻撃隊総指揮官・元海軍大佐）/特殊潜航艇発進す（酒巻和男当時特殊潜航艇長・元海軍少尉）/真珠湾雷撃行（森給三当時空母「蒼龍」雷撃機搭乗員・元海軍少尉）/戦艦レバリスの最期（須藤賢当時マレー方面雷撃隊先任小隊長・元海軍少佐）/伊一七米本土を砲撃す（原誠次当時伊17潜水艦乗組員・元海軍上等兵曹）/機動部隊針路九十七度ー「赤城」飛行長の日記（増田正吾当時空母「赤城」飛行長・元海軍大佐）/シンガポールへの道/香港攻略とバターン砲兵戦（北島隼子雄当時南方軍砲兵司令官・元陸軍中将）/コタバル奇襲上陸ー支隊長陣中日誌より（佐美浩当時マレー方面軍砲美支隊長・元陸軍少将）/マレー戦車隊（島田豊作当時南方軍マレー戦車隊長・元陸軍中佐）/シンガポール攻略ー近衛歩兵第五連隊の記録（岩畔豪雄当時南方派遣近衛歩兵第五連隊長・元陸軍少将）/ブキテマの死の壁（牟田口廉也当時南方派遣第十八師団長・元陸軍中将）/メナド、クーバン降下作戦ー海軍落下傘部隊戦記（山辺雅男当時海軍落下傘部隊メナド降下中隊長・元海軍少佐/機動部隊降下でジャワ海の決戦（田中常治当時迷洋艦「那智」高角砲分隊長・元海軍少佐）/珊瑚海・空母の死闘（天藤明当時空母「祥鳳」乗組報道班員・朝日新聞報道部長）/スラバヤの凱歌ー戦艦白龍（嵯峨千歳当時戦艦「夕立」航海長・元海軍大尉）/大海令ーハワイ奇襲攻撃をめぐる論争（富岡定俊当時大本営軍令部作戦課長・元海軍少将）/解説（吉田俊雄当時大本営軍令部参謀・元海軍中佐）（高杉恭自当時関東軍参謀・元陸軍中佐）/付録あり	1960/5	平和	日本語	310	図版・A5判 (21.7×15.8cm)	中央公論社

平和44	平成11年度「語り継ぐ戦争体験」入賞作文集	兵庫県健康福祉部が平成11年度に「語り継ぐ戦争体験」という作文集を刊行平成11年度「語り継ぐ戦争体験」入賞作文集 教えてほしい戦争のこと 伝えていきたい未来のために	2015/8/0	平和	日本語	120	A4判 (29.7×21cm)	兵庫県健康福祉部 社会援護課
平和45	七夏の願い ～明石空襲～ (「明石の空襲 一史実編一」と2冊)	みんなのしあわせのために 平和啓発版 七夏の願い ～明石空襲～ この物語について 戦争は、遠い昔に、遠い場所であったではありません。いまから七十年前、明石にも六回の空襲があり、多くの命が失われたことは知っていますか？この物語は、当時の資料をもとにして作成しています。明石にあったこと……。そして、わたしたちの未来を考えてみて下さい。 明石市平和啓発冊子「明石の空襲 一史実編一」10頁	2000/3/0	平和	日本語	26	A4判 (29.7×21cm)	明石市 コミュニティ推進部 人権推進課
平和46	戦後・被爆80年 戦争にまつわる体験 記録集	川西市では、令和2（2020）年から戦争にまつわる体験記の募集をおこなっています。 市民からお寄せいただいた貴重な体験記は、すべて市のホームページに掲載させていただきます。 また、毎年2～3編を「広報じんけん」（全世帯配付）にも掲載させていただきます。 今年は、戦後80年という節目の年です。そこで、今まで（令和2年～令和6年）にお寄せいただいた体験記54編を1冊の記録集にまとめることにしました。 戦争体験者は年を重ねるごとに少なくなり、寄稿の数も少なくなってきました。そのため、戦争に関連する体験（者）のお話（記録）はより一層貴重なものになってきています。 ここに掲載された体験記は、これからの社会、未来を担う子どもたちへの貴重なメッセージだと思います。 この記録集が、皆さまの心の中で何かを問いかけ、共に未来を思い描くきっかけとなることを願っています。過去を振り返り、平和の灯火を未来へと繋ぐために。 ※寄稿者の年齢は、体験記執筆時の年齢ですので寄稿年と一致しない時があります。 ※文字（漢字や数字含む）の使い方はできるだけ原文を尊重していますが、統一性の観点から一部校正しています。 ※歴史的事実関係等においては、執筆者の記憶を尊重し、そのまま記載しています。	2025/9	平和	日本語	62	A4判 (29.5×21cm)	川西市 人権推進多文化共生課
平和47	戦後・被爆80年 戦争にまつわる体験 記録集	川西市では、令和2（2020）年から戦争にまつわる体験記の募集をおこなっています。 市民からお寄せいただいた貴重な体験記は、すべて市のホームページに掲載させていただきます。 また、毎年2～3編を「広報じんけん」（全世帯配付）にも掲載させていただきます。 今年は、戦後80年という節目の年です。そこで、今まで（令和2年～令和6年）にお寄せいただいた体験記54編を1冊の記録集にまとめることにしました。 戦争体験者は年を重ねるごとに少なくなり、寄稿の数も少なくなってきました。そのため、戦争に関連する体験（者）のお話（記録）はより一層貴重なものになってきています。 ここに掲載された体験記は、これからの社会、未来を担う子どもたちへの貴重なメッセージだと思います。 この記録集が、皆さまの心の中で何かを問いかけ、共に未来を思い描くきっかけとなることを願っています。過去を振り返り、平和の灯火を未来へと繋ぐために。 ※寄稿者の年齢は、体験記執筆時の年齢ですので寄稿年と一致しない時があります。 ※文字（漢字や数字含む）の使い方はできるだけ原文を尊重していますが、統一性の観点から一部校正しています。 ※歴史的事実関係等においては、執筆者の記憶を尊重し、そのまま記載しています。	2025/9	平和	日本語	62	A4判 (29.5×21cm)	川西市 人権推進多文化共生課
平和48	戦後・被爆80年 戦争にまつわる体験 記録集	川西市では、令和2（2020）年から戦争にまつわる体験記の募集をおこなっています。 市民からお寄せいただいた貴重な体験記は、すべて市のホームページに掲載させていただきます。 また、毎年2～3編を「広報じんけん」（全世帯配付）にも掲載させていただきます。 今年は、戦後80年という節目の年です。そこで、今まで（令和2年～令和6年）にお寄せいただいた体験記54編を1冊の記録集にまとめることにしました。 戦争体験者は年を重ねるごとに少なくなり、寄稿の数も少なくなってきました。そのため、戦争に関連する体験（者）のお話（記録）はより一層貴重なものになってきています。 ここに掲載された体験記は、これからの社会、未来を担う子どもたちへの貴重なメッセージだと思います。 この記録集が、皆さまの心の中で何かを問いかけ、共に未来を思い描くきっかけとなることを願っています。過去を振り返り、平和の灯火を未来へと繋ぐために。 ※寄稿者の年齢は、体験記執筆時の年齢ですので寄稿年と一致しない時があります。 ※文字（漢字や数字含む）の使い方はできるだけ原文を尊重していますが、統一性の観点から一部校正しています。 ※歴史的事実関係等においては、執筆者の記憶を尊重し、そのまま記載しています。	2025/9	平和	日本語	62	A4判 (29.5×21cm)	川西市 人権推進多文化共生課
平和49	わたくし96歳が語る 16歳の夏 ～1945年8月9日～	語り：森田富美子 聞き手・文：森田京子 1945年8月9日の長崎。「あの夏」は、もう誰にも経験させたくない。Xで8.5万フォロワーを持つ「わたくし96歳」が語る戦争の記憶。 1945年8月9日、長崎で被爆した著者は、当時16歳。戦後の人生において、その体験を語ることなく過ごしてきましたが、ある日、自らに問い直します。 「2019年6月、私は90歳になりました。それをきっかけに、これまで語らなかった戦争体験、被爆体験を語っていかうと、「カタリバ（語り部）」をする決心をしたのです。」 （本文より） 戦争体験者、被爆体験者は年々減り続けています。「伝えられただけ伝えないと」——その思いは、日に日に強くなっていきました。思い出したくもない、語りたくもない話です。だからこそ、長い間、口を閉ざしてきたのです。2022年2月、ロシアによるウクライナ侵攻が始まった直後、著者がTwitter（現・X）に投稿した文章が注目を集めます。 「20歳の女性が渋谷の反戦デモに参加した」というツイートを讀んだ。初めてデモ、生きているうちに戦争反対を叫ぶとは思わなかった、涙が出たと言っていた。戦争を知らない若い人達にこんな思いをさせるとは思わなかった。2度と戦争の悲劇を繰り返さない、それが私達戦争体験者なのにな。」（投稿より） この投稿は49万件以上の「いいね」を集め、大きな反響を呼びました。戦争体験者のほとんどが、あまりに悲惨な体験だったがゆえに、それを語らないままでした。以降、戦争体験者として自らの言葉を発信し続けてきた著者は、今、96歳。語ることを避けていた「あの日」の記憶を、一冊の本にまとめました。 本書は、「カタリバ」になろうと決心した著者と、長女が書き溜めていた「著者の記憶」をもとに完成させた「カタリバの記録」です。	2025/7	平和	日本語	96	A5判 (21×15.3cm)	KADOKAWA